

<参考>重症熱性血小板減少症候群について

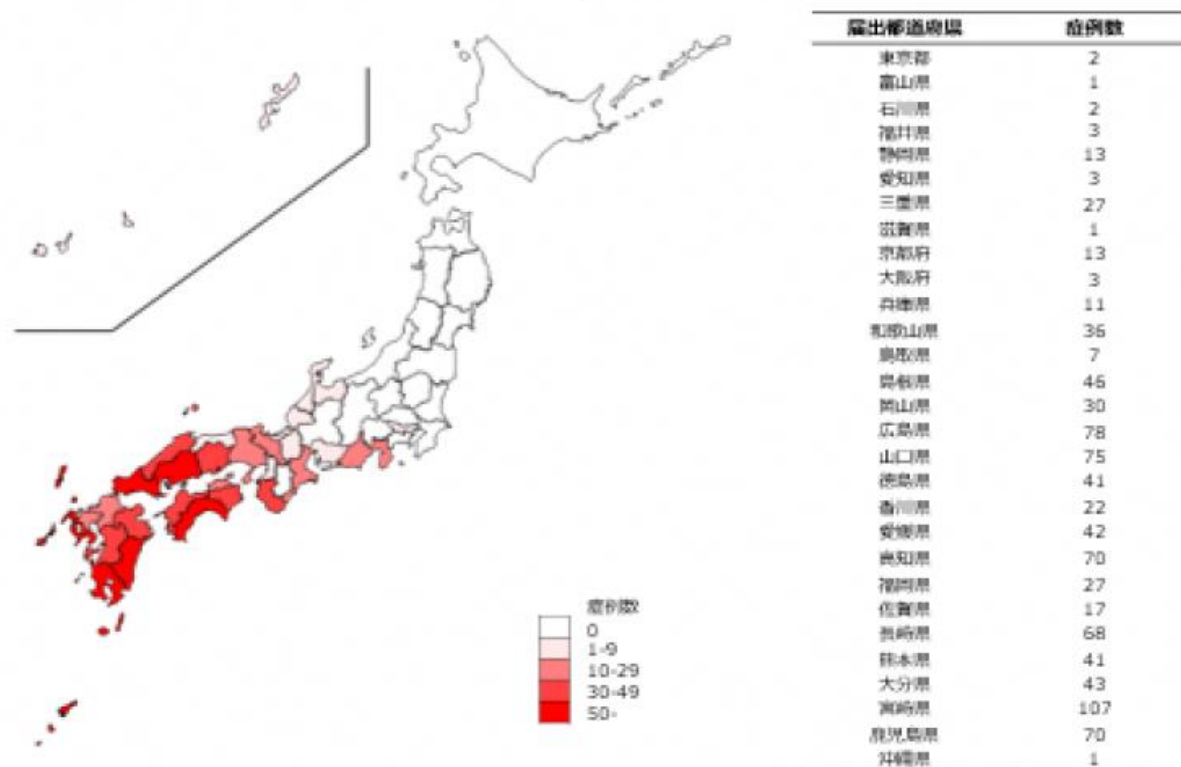
1 発生状況

平成 23 年に中国で初めて特定された、SFTS ウイルスに感染することにより引き起こされる病気で、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることで感染します。

ウイルス自体は以前から国内に存在していたと考えられますが、平成 25 年 1 月に山口県で国内初の感染事例が確認されて以降、毎年 60～90 名前後の患者が報告されています。また、平成 25 年 3 月に感染症法上の四類感染症に指定されて以降、これまでに全国で 900 名の患者が報告されています（図 2）。令和 5 年では 9 月 10 日現在、全国で 111 名の患者が報告されています。

なお、県内では令和 2 年 6 月 8 日に初めて SFTS 症例が確認されています。

図2. SFTS届出症例の届出地域 (n=900, 2023年7月31日現在)



出典：国立感染症研究所ホームページ (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/sa/sfts.html>)

2 感染経路

多くの場合、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染しますが、稀に血液等の患者体液との接触により人から人への感染も報告されています。

3 症状

マダニに咬まれてから 6 日から 2 週間程度の潜伏期間を経て、主に発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が出現し、時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑、下血）を起こします。

4 対処方法

治療は対症療法しかなく、有効な薬剤やワクチンはありません。